インタビュー詳細資料 「母と子のロンジン」

■原田美枝子さん インタビュー

―撮影はいかがでしたか？

最初は、どういう映像なのか想像がつかなくて、ちょっと緊張しましたが、その場で編集して（すぐに映像を）見せてくれるので安心したのと、時代は変わったなと思いました。

―「海」を表現されるにあたって意識したことはありますか？

おおらかで居ようと思っていました。最初は、顔が少し緊張してたかなぁと思います。

―時計の気に入っている点はありますか？

チェーンの感じが、見た印象と違って、ものすごくフィット感があるんです。それから軽いです。ピタッと肌に着く感じがすごいなと思いました。190 年もの間ずっと時計を作り続けて、本当に研究に研究を重ねてきた会社なんだなと、感触で感じましたね。見た目も着け心地もすごく綺麗な時計だなと思いました。

―動画やグラフィックのこだわりや注目ポイントは？

デジタルの背景と自然に上手く調和したら良いなと思って、敢えてなるべく何も考えないように、自然に力が抜けたら良いなと思いながら臨みました。

なるべく雑念を入れないようにするのがどんな時も大事かなと思います。例えばスポーツ選手でも、よく無心でやった時の方が良いといいますが、全く同じで、余計なことを考えていると、やっぱり余計なことを考えている顔になってしまうので、なるべく何も入れない。心配したり疑ったり、ネガティブなとこも全部持たないようにしています。

―そういった考え方がエレガンスに繋がっているんですね。

私が例えば誰かを見てて、“この人素敵だなぁ”って思うような人たちや仕草というのは、やっぱり丁寧なんですよね。それは仕草だけではなくて丁寧に作られたもの、もちろんこの時計も同様に、本当に職人さんたちが気を抜かずに一つ一つ妥協せずに作ってきたものとか、食事にしても丁寧に素材を大事にして作ったものって美味しいですよね。そういう丁寧である、一つ一つ真っ直ぐに向き合って、丁寧に扱い、丁寧に差し出すということが、きっとヒキの画で見た時にすごくエレガントに見えるんじゃないかなと思います。

女の人のこういう（髪をかき上げる）仕草にしても、ガサツにわさわさしてやるのではなくて、背筋をしゃんと伸ばして、サッと歩けたり立ったりできたら、きっとエレガントに見えるだろうなと思っています。

―動画やグラフィックで「強さ」も表現していますが、弱い自分になってしまったり落ち込んだりした時に、それを跳ね返し、逆境を乗り越えるために何をしていますか？

星、地球の上に自分がいて、地球の上を大股で歩いているっていうイメージを持ってみたり、自分が立っている地球が、もし地面の下が全部透明だったとしたら、と想像したりするんです。そうすると、足元を見たらそこはもう全宇宙で、星も見えますよね。そういう大きな想像に一瞬でも頭を切り替えると、パッと心が晴れると思うんです。大体落ち込んだりする時というのは、ものすごく細かいことに拘って、“ここが嫌だったの…”と考え込んでしまうけれど、そういうことをパッと一瞬で放すには、地球が透明になっているビジョンとかを持つとスッとします。海の映像などもそうですが、波を見ているだけで、音を聞くだけで、心が穏やかになります。そうやって乗り越えています。

―そういった考えに至ったきっかけは？

私は 30 歳の時から座禅をするようになったのですが、座禅って自分を放すということが最初から最後まで一番大事。“自分”っ

ていうのが、自分に対する一番強い束縛なので、それを放してあげるんです。事実、私たちは大宇宙の中にいて、大宇宙の小さな天の川銀河の端っこの太陽系の地球の上にいるんだということを思い出せば、 “小さいことは気にしない、なるようになる“と思えて、色んなことが流れていく気がします。

―今、悩んでる方に届けたい言葉ですね。
コロナ禍とか、色々なことですごく窮屈に生きなきゃならない状態ですから、若い人は本当に伸び伸びして人生を楽しんでほしいのに、可哀想だなと思うんです。小さい子どもも含めて、大人もそうです。だけどいつかマスクが取れて、色々な人と自由に会ったり、話したり、お酒を飲んだりできるような時期がもうすぐ戻ってくると思うので、もうちょっと忍耐ですかね。

―エレガンスという言葉にどういう印象をお持ちですか？
元々は優雅とか品性という意味の言葉ですよね。この年齢になってくると、かっこよく歳を取りたいなと思うんですよね。みすぼらしくなったり、いじけていったりしたくないから、ちゃんと背筋を伸ばして生きていたいなと思うんです。
本当にエレガントで、かっこいいおばあちゃんになりたいなと思っています。

―エレガンスを体現する生き方とはどのようなことだと思いますか？
裏表を持たないことかな、と思います。日本では本音と建前という言葉がありますが、やっぱり心って透けて見えてしまうものですから。私は俳優で、自分の身体を通して役を演じていくのですが、口でこう言ってるのに全然違う気持ちで芝居をしていたら、その言葉通りに見えないんですね。だから心も身体も思っていることも一つじゃないと、本当に説得力が出てこないので、正直であること、丁寧であること、真摯であることを普通の生活の中で心掛けていれば、自然とエレガンスに繋がるんじゃないかなと思います。例えば街中で、“この人素敵だなぁ”と思うとき、それは良いものを着ているとか、そういうことではなくて、自分の仕事や生き方に対して必ず全部責任を取ってきている人たちだと思うんです。そしてあまりつまらないことに拘らないで、幸せなことをちゃんと見つけられる人たち。そういう人が素敵に見えると思うので、そうなりたいなと思います。
いつ誰が見ても“この人は嘘がないね”と思ってもらえるように生きていたいなと思います。時々フッっと鏡を見るとすごい眉間にシワが寄っていたりする時があるのですが、そういう時は直ちに反省します（笑）。

―様々な作品に出演されていますが、今後の目標はありますか？
仕事の目標は特に無いです。頂く仕事を大事にやっていきたいです。

―プライベートでの目標や、挑戦したい・していることはありますか？
去年撮影して今年の秋に公開される『百花』という映画があるのですが、それでピアノの先生の役で、ピアノを弾くシーンがあるので去年 1 年練習してたんです。撮影は終わったのですが、ピアノがすごく好きになっちゃいました。子どもの頃オルガンをちょっとやっていただけなので、映画の時の先生にそのまま教えてもらって、続けています。ピアノはすごく楽しいです。やっぱり私たちの仕事は 1 回ずつ終わっていっちゃうので、自分の中で一つやり続けるものがあって、そこがちょっとずつ上手になっていったりすると嬉しいので、自分の宿題みたいにして、1 年かけてこの曲を弾けるようにする、という風にやっています。すごく楽しいです。毎日ちょっとずつ練習しないとすぐ忘れちゃうし、手も動かなくなっちゃうんです。

―ロンジンに対してどのようなイメージを持っていますか？
私は乗馬をやっているので、ジャンプ競技、障害競技、ヨーロッパでは公式スポンサーや公式タイムキーパーとしてロンジンの看板がバンと出ている大会をよく見ます。本当にすごく上のレベルの人たちしか出てないので、障害のレースとロンジンとトップレベル、トップの馬たちというイメージがリンクしています。

―時計を着けるシーンやコーディネートのポイントを教えて下さい。
時間を必ず見る、というのもあるのですが、やっぱり手首にちょっと良いものがあると気分が引き締まりますね。ブレスレットとか、普段はアクセサリーを沢山しないのですが、時計をしていると少し大人な感じがして、私は嬉しいです。ちゃんとしなきゃという気持ち

になります。正確に時間を、時を刻んでいる。その時間を中心にみんな、世の中がまわっている訳ですし、ちゃんとしようと思います。

―芝居での役作りにおいて、時計はどんな役割を果たしますか？
役によって小さいのをしていたり、ゴツいのをしていたり、よく時間を見たりイライラしてる芝居に使うので、役作りには、役に立ちます。

―動画をご覧の皆さんにメッセージをお願い致します。
あまり映画やドラマでは使わない手法だと思うのですが、すごく綺麗な映像になっていますので、時計も一緒にお楽しみください。

■石橋静河さん　インタビュー

―撮影はいかがでしたか？
グラフィックもムービーも、私は空に雲が流れていく映像を投影しての撮影でした。なかなかタイミングを合わせるのが難しかったのですが、特にムービーで見た時に自分が空に浮いているような感じになっていたので、すごく素敵な映像になって嬉しいなと思います。

―「空」を表現されるにあたって意識したことはありますか？
本当に雲の間に浮いているイメージで動いてみようとか、想像しないといけない部分が大きかったのですが、それを楽しみながら、“浮いていたらこんな感じかな～”と思いながら演じました。タイムラプスでちょっと早い雲の動きだったのですが、こんな風に雲って出たり消えたりしてるんだな、と思わずずっと見入ってしまいました。

―着用した時計の気に入っている点はありますか？
本当に純粋に綺麗だなというのと、青（色）がすごく深い青で、光によってはちょっと黒っぽく見えるのですが、でも実際は深い青というのがとてもかっこいいなと思って。光がパッと当たった時に、横のキラキラしている部分が、反射して光るのが美しくて、すごく素敵なものを身に着けさせていただいて、光栄な気持ちになりました。

―動画やグラフィックのこだわりや注目ポイントは？
私は真っ白な衣装を着ているので、そこに雲の流れが映ったり、自分と外の世界がシームレスになっている感じがすごくかっこいいと思っていて、それを注目していただきたいです。映像に合わせながらの撮影が初めてだったのと、普段はお芝居を自然な流れでナチュラルに撮っていくことの方が多いので、パキッと真正面からドーン！と撮る感じがすごく新鮮でしたね。面白かったです。

―動画やグラフィックで「強さ」も表現していますが、弱い自分になってしまったり落ち込んだりした時に、それを跳ね返し、逆境を乗り越えたエピソードはありますか？
15 歳の時に、アメリカにバレエ留学をしたのですが、最初の 2 年間はずっとホームシックで、毎日スカイプで家族に（電話をかけて）、泣きながら「つらい…」みたいなことを毎回言っていて。友達（との会話）も言葉が喋れないし、自分からアプローチしなければならず、やっぱり日本とは違ってアメリカって自己主張しないといけない国なので、それが最初はできなくて、置いてけぼりになったりして、本当に孤独だったのですが（笑）。でもそれでスカイプで帰りたい、つらいと言った時に、家族に「帰ってきていいよ」と言われると悔しくて、「帰らない！」というのを何度も繰り返して。何とかその 2 年を乗り越えました。その後カナダのバレエ学校に移って 2 年過ごしたのですが、そこでは友達もできたし、英語も喋れるようになったし、ホストファミリーもすごく素敵な人たちで、とても幸せな留学生活になったので、そこで頑張って踏ん張って良かったなって、今でも思います。

―落ち込んでしまった時、家族の存在や支えはやはり大きいですか？
そうですね。本当にその時（留学時代）は特にそうでしたね。姉が、デジカメで撮った色々な写真をプリントアウトして、それをBOOK に貼って、言葉を添えてくれて…ポエティックな感じで（言葉が）書いてあるのですが、それをホームシック真っ只中の時にくれて。いつも辛い時はそれを泣きながら見て、励まされていました。いつもみんなに支えてもらっています。

―エレガンスという言葉にどういう印象をお持ちですか？
どんな時でも、ブレないというのが、エレガンスなのかなと思いました。

―石橋さんご自身が、そういったところを意識して日々生活されている印象を受けました。
つらかったり、色んな事が起きて、気持ちが少し浮ついてしまうというか、例えばパニックになりそうになったりするようなことってたまにあると思うのですが、特にこういうご時世で。でもそういう時に、世の中が"わぁ"ってなっていても、自身で落ち着いて冷静に判断できたりすることって、生きていく上ですごく大事なのかなと思うので、そういう人が居ると、周りも落ち着くというか、"あ、大丈夫だ"と思えたりもするし。そういう人になりたいです。

―エレガンスを体現する生き方とはどのようなことだと思いますか？
どんなに、端から見て華やかな生活をしていたり、豊かな暮らしをしているように見える人でも、日々の積み重ねをしないといけないじゃないですか。それがどんなことであれ、どんな人であっても、スーパースターであっても、毎日やらなきゃいけないこととかみんなあって。そういう風に見える人だから楽に生きているという訳ではきっとないだろうなと思うので、自分には自分のやらなきゃいけないことや、大変なこともあるけれど、憧れる人にも大変なことも抱えていることもあって。それをコツコツ毎日新しい気持ちでやっている人はそういう（エレガンスを体現する）生き方なのかなと。どんなに自分から離れてすごく飛躍しているように見える人でも、実は毎日努力していたり。自分から見えないだけで、そういう色んな努力をしているということだと思うので、それを投げやりにならずにできる人が、そういう（エレガンスを体現する）生き方をしているのかなと思います。

―ご自身がエレガンスでいるために心がけていることはありますか？
見栄を張ったり、格好つけたりしてしまうと、それをし続けないといけないので、それってすごく大変なことだと思うんです。それももちろん素敵だと思うのですが、それよりも自分の気持ちに素直でいることを追及する方が、無理なく自分も気持ち良くいられる。それは周りにも伝わると思うので、あまり自分を大きく見せたり、偽ったり、強がったりせずに、辛い時はそれを周りに打ち明けたり頼れたらいいなと思うし、もしも周りにそういう人がいたら自分が声を掛けてあげたり、という風に、素直でいることが、結果エレガンスに繋がるんじゃないかなと思います。

―どういう人にエレガンスを感じますか？
伸びやかな人はエレガントだなと思います。（撮影時の）雲の映像もどんどん形が変わっていって、消えたと思ったらまたそこから雲が生まれて。植物も新しい葉が出てきて、古くなった葉は落ちるけれどそれが土に還ってまた新しい葉が出て、どんどん循環していると思うのですが、人もそういう風に循環しているというか。古いものにしがみついたり、変わることを拒んだり、恐れたりしていない人の方が、生き方として素敵だなと思います。

―様々な作品に出演されていますが、今後の目標はありますか？
あまり目標を立てないタイプの人間なので…。お芝居の仕事って、"こういう役がやりたい"とか、"こういうことがしたい"と思っても、それを与えてもらう仕事で、なかなか自分の思った通りにはいかないので、そもそもあまりそういう風に考えないようにしていて。こんな役と出会った、という出会いの方が大事だなと思っているのですが、一つ言うなら、私は元々踊りをやっていて、歌うことも好きなので、歌ったり踊ったりできるミュージカル映画とか、色々なことができる作品に出会えたら良いなと思います。

―プライベートでの目標や、挑戦したい・していることはありますか？
去年くらいから、お能や日本の昔からある芸能にすごく興味があって。そういうことを全然知らないで、15 歳から留学して、外に

ばかり目がいきがちだったのですが、コロナ禍になってあまり海外に行けなくなった時に、日本ってこんなに面白い場所や文化がいっぱいあるんだと思って。それを本当に知らないので、どんどん色々な出会いを自分から探しに行って勉強したいなと思っています。

―ロンジンに対してどのようなイメージを持っていますか？
ギラギラと主張するのではなく、でも光がパッと当たったりした時に、キラッとしたり、ふと見た時にすごく落ち着いた深い青（色）だったりして、流石だなというか。世代的にも毎日腕時計をするタイプではなかったのですが、すごくかっこいいし、携帯で時間を見るよりも大人な感じがするので、これからはもうちょっと着けたいなと思いました。

―時計を着けるとしたら、どのようなコーディネートに取り入れたいですか？
シンプルにＴシャツとジーンズで、すごくラフだけどちょっと素敵な時計をしているというのが、素敵だなと思います。

―動画をご覧の皆さんにメッセージをお願い致します。
今回はプロジェクションで、空や海などの美しい自然を投影させたダイナミックな映像になっていると思いますので、ぜひご覧ください。